

# Non congruence subgroup の Hecke 作用素

栗大 理 寺 弘 友 秀  
(Tomohide Terasama)

§1 Riemann 面  $\mathbb{H}/\Gamma$  の分岐の様子.

$$E \ni E: y^2 = x(x-1)(x-p) \quad (p \text{ は odd, } \in \mathbb{N}, p \geq 5)$$

で定義した  $\Gamma$  の elliptic curve とする。

Lemma 1  $E$  は  $\mathbb{P}^1$  上の  $\{0, 1, \infty\}$  以外で不分岐な covering と  
で表わすことができる。

Proof これは Belyi の定理より、 $\Gamma$  は一般化  $\Gamma$  の形に知られているが、  
ここでその具体的な形を  $\Gamma$  のみで表わす。  $E \rightarrow \mathbb{P}^1$  に  
 $(x, y) \in x=1$  の morphism と考えれば、これは  $X = \mathbb{P}^1 \setminus \{0, 1, \infty, p\}$   
以外で不分岐な covering  $\Gamma$  があるから、  $f: X = \mathbb{P}^1 \rightarrow Y = \mathbb{P}^1$  なる  
map がある。  $f^{-1}(\{0, 1, \infty\}) = \{0, 1, \infty, p\}$  である。  $f$  は  $\{0, 1, \infty\} \subset Y$   
以外で不分岐な covering もある構成が知られている。  $\Gamma$  は

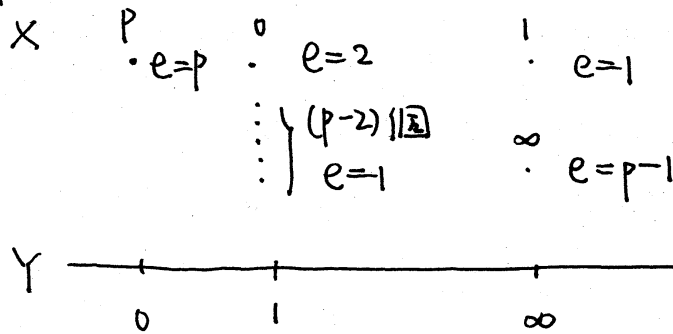
$$\begin{array}{ccc} \mathbb{P}^1 & \longrightarrow & \mathbb{P}^1 \\ \downarrow & & \downarrow \\ x & \longmapsto & f(x) \end{array}, \quad f(x) = \frac{1}{p} (x-1)^{-1} (x-p)^p$$

と表わすことができる。  $\Gamma$  から合成して  $E \rightarrow X \rightarrow Y$  には  $\Gamma$  の  
分岐 covering が得られる。 Q.E.D.

± 2次 =  $E/Y$  の Galois closure を取れり。  $h \in Y^0 = Y - \{0, 1, \infty\}$  の点と  
 対応。  $E_h := h^{-1}$  なる  $E$  の fiber あり。  $\pi_1(Y^0, h)$  が作用する。  
 したがって。  $\pi_1(Y^0, h) \rightarrow \text{Aut}(E_h)$  とし。  $\Rightarrow$  a kernel に対応する  
 $Y$  の covering を取れり Galois closure あり。  $X_h := h^{-1}$   
 なる  $X$  の fiber あり。  $\Rightarrow$  a 時。  $\#X_h = p$  あり。

Lemma 2  $\pi_1(Y^0, h) \rightarrow \text{Aut}(X_h)$  は全射である。 すなわち  
 $X/Y$  の Galois closure の  $Y$  上の Galois 群は。  $p$  次対称群  $S_p$   
 あり。

Proof 分岐点の様子を下の図の様にとる。



$\Rightarrow$   $\tau \in S_p$ .  $\tau = \tau$  の分岐指数を表現可。  $\Rightarrow$   $h$  から  $Y$  上の map の像  
 あり。  $\mathbb{Z}/p, \mathbb{Z}/2, \mathbb{Z}/(p-1)$  を含む。 対称群の性質より。  $\Rightarrow$   $S_p$  あり。 必  
 ず  $S_p$  を生成可。 Q.E.D.

±2次にいたる群を定義する。

$$H_2 = \{f \in \text{Aut}(\{-p, \dots, -1, 1, \dots, p\}) \mid f(-x) = -f(x) (\forall x \in \{-p, \dots, p\})\}$$

$$H_1 = \{f \in H_2 \mid f(1) = 1\}$$

$$\exists \rho: H_2 \xrightarrow{\rho} \sigma_p = \text{Aut}(\{1, \dots, p\}) \text{ を } f \mapsto f \text{ (modulo sign)}$$

で定義し、その kernel を  $V$  とおく。この時

$$0 \rightarrow V \rightarrow H_2 \xrightarrow{\rho} \sigma_p \rightarrow 0 \text{ (exact)}$$

と成る。±2EのY上の Galois closure を  $M$ ,  $X$  の Y 上の Galois closure を  $L$  とおく。この時 Riemann の covering の関係は、図の様になる。

$$\begin{array}{ccc} L & \leftarrow & L \cdot E \leftarrow M \\ \downarrow & & \downarrow \\ X & \leftarrow & E \\ \downarrow & & \\ Y & & \end{array}$$

Theorem 3 上の図に於て、群の包含関係は下の図の様になる。

$$\begin{array}{ccc} V & \leftarrow & H_1 \cap V \leftarrow 1 \\ \downarrow & & \downarrow \\ P(\sigma_{p-1}) & \leftarrow & H_1 \\ \downarrow & & \\ H_2 & & \end{array}$$

Proof 証明は難しくないので省略する。

## §2 群論的解決.

$Y - \{0, 1, \infty\} \cong \mathfrak{h}_g / \Gamma(2)$  である。  $= \mathbb{C}$ . 上半空間  $\mathfrak{h}_g = \{z \in \mathbb{C} \mid \text{Im} z > 0\} \cong \Gamma(2) = \left\{ \begin{pmatrix} a & b \\ c & d \end{pmatrix} \in \text{SL}(2, \mathbb{Z}) \mid \begin{pmatrix} a & b \\ c & d \end{pmatrix} \equiv 1 \pmod{2} \right\}$  は、1次分数変換で作用するものとする。  $\Gamma(2)/\pm 1$  は、 $\mathfrak{h}_g$  に fixed-point free に作用する。  $\pi_1(Y - \{0, 1, \infty\}, z) \cong \Gamma(2)/\pm 1$  である。  $Y \cong \mathfrak{h}_g / \Gamma(2)$  上、  $Y \rightarrow 0$  と  $0$ -cusp,  $Y \rightarrow \infty$  と  $i\infty$  cusp, に対応する様子は、  $A = \begin{pmatrix} 1 & 2 \\ 0 & 1 \end{pmatrix}$  が  $\text{Aut}(X_{2, \dots, p})$  に対応する image が、  $(2, \dots, p)$  と conjugate,  $B = \begin{pmatrix} 1 & 0 \\ 2 & 1 \end{pmatrix}$  が image が、  $(1, \dots, p)$  と conjugate とする。 他方、  $AB^{-1} = \begin{pmatrix} -3 & 2 \\ -2 & 1 \end{pmatrix} \in \{1\text{-cusp stabilizer}\}$  なるので  $AB^{-1}$  は  $(1, 2)$  と conjugate である。  $\therefore$  以上の事から適当な番号のつけかえ  $(X_{2, \dots, p})$  により、

$$\pi_1(Y - \{0, 1, \infty\}) \longrightarrow \text{Aut}(X_{2, \dots, p})$$

$$\begin{array}{ccc} \downarrow \cong & & \downarrow \cong \\ \Gamma(2)/\pm 1 & \xrightarrow{\varphi} & \Sigma_p \end{array}$$

$$\alpha = A^{-1} = \begin{pmatrix} 1 & -2 \\ 0 & 1 \end{pmatrix} \longmapsto (2, \dots, p)^{-1}$$

$$\beta = AB^{-1} = \begin{pmatrix} -3 & 2 \\ -2 & 1 \end{pmatrix} \longmapsto (1, 2)$$

$$\gamma = B = \begin{pmatrix} 1 & 0 \\ 2 & 1 \end{pmatrix} \longmapsto (1, \dots, p)$$

対応する様子は、  $(2, \dots, p)$  と  $(1, 2)$  と  $(1, \dots, p)$  と対応している。

Proposition 1  $\mathbb{Z}^p \cong E_e = \{\pm 1, \dots, \pm p\}$  と同一視される。

i)  $E_e \ni \pm i \mapsto i \in X_e \subset \mathbb{Z}^p$ .

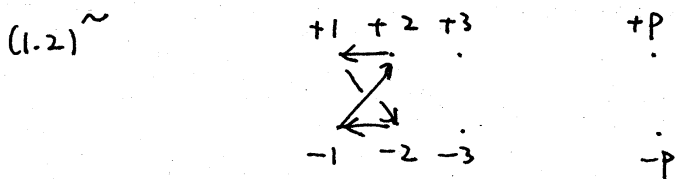
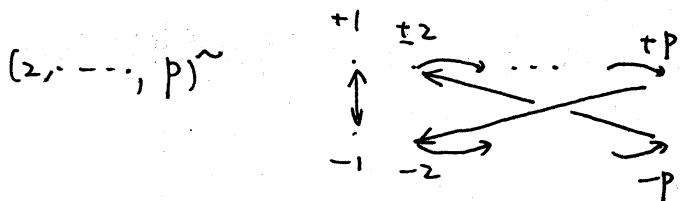
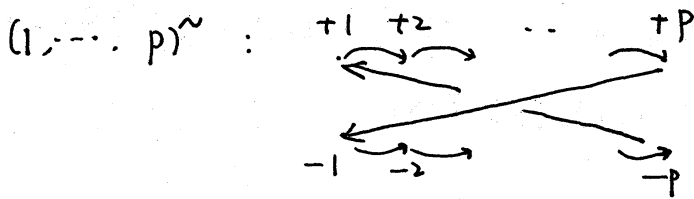
ii)  $\pi_1(Y - \{0, 1, \dots, p\}) \xrightarrow{\varphi} \text{Aut}(E_e) \cong \mathbb{Z}^p$ .

$$\alpha^{-1} \longmapsto (2, \dots, p)^\sim$$

$$\beta \longmapsto (1, 2)^\sim$$

$$\gamma \longmapsto (1, \dots, p)^\sim$$

$\mathbb{Z}^p$  map  $\mathbb{Z}^p \ni \vec{z} \in \mathbb{Z}^p$   $\ni \vec{z} = (1, \dots, p)^\sim, (1, 2)^\sim, (1, \dots, p)^\sim$  1つ。



$\mathbb{Z}^p$  置換である。

Proof まず  $(1, \dots, p)^\sim$  は  $E_e$  に作用可。  $\ni$  1つ。  $X_e \subset \mathbb{Z}^p$  子

$\in (1, \dots, p)^\sim$  である。  $\mathbb{Z} = \{\pm 1, \dots, \pm p\} = \text{transitive}$  に作用

す。  $(2, \dots, p) \sim$  は  $X$  上で見ると、  $(2, \dots, p)$  で、  $\{\pm 2, \dots, \pm p\}$  に transitive に作用する。  $\exists \tau \in \Gamma$ .  $(1, \dots, p) \sim (2, \dots, p) \sim^{-1}$  は、  $\{\pm 1, \pm 2\}$  に transitive に作用し、  $\{\pm 3, \dots, \pm p\}$  に trivial に作用するから、 二つの事象を考慮合わせると、 図の様な置換を  $\Gamma$  が  $\pm 1$  以上で得られる。 Q.E.D.

$\pm 2$ . 前 § の記号での  $\pi_1(Y - \{0, 1, \infty\}) \cong \Gamma(2)/\pm 1 \rightarrow H_2$  なる map 及び  $l$  を奇素数として  $\Gamma$  時の自然な map  $\Gamma(2)/\pm 1 \rightarrow \text{PSL}(2, \mathbb{F}_l)$  を合わせ、  $f: \pi_1(Y - \{0, 1, \infty\}) \rightarrow H_2 \times \text{PSL}(2, \mathbb{F}_l)$  なる map を得る。 以後  $l$  は 5 以上の自然数とする。

Proposition 2  $l > p, (l, p-1) = 1$  をもとめて、  $f$  は全射である。

Proof  $f$  は surjective であることを示す。  $\text{Im} f \cap H_2 \times \{e\} = H_2 \times \{e\}$  を示せば十分である。 まず  $\text{Im} f \cap H_2 \times \{e\} \xrightarrow{\pi} \sigma_n$  が全射であることを示そう。 今、  $A = \begin{pmatrix} 1 & 2 \\ 0 & 1 \end{pmatrix}$  は  $\pi$  に  $f, z$ .  $(2, \dots, p)$  の元である。  $A^l = \begin{pmatrix} 1 & 2^l \\ 0 & 1 \end{pmatrix}$  は、  $(2, \dots, p)^l$  の元である。  $\text{order}(p-1)$  の元である。  $B = \begin{pmatrix} 1 & 0 \\ 0 & 1 \end{pmatrix}$  は  $\pi$  に  $f, z$ .  $(1, \dots, p)$  の元である。  $B^l$  の  $\pi$  に  $f$  の image の  $\text{order}$  は、  $p$  である。  $\exists \tau \in \Gamma$ .  $(AB^{-1})^l \equiv 1 \pmod{l}$  であり、  $\pi$  に  $f$  の image は、  $\text{order} 2$

である。  $\text{Im} f \cap H_2 \times \{e\} \rightarrow \mathbb{C}_p$  の image は、 order  $p$ ,  $p-1, 2$  の元を含む全射である。また、  $A^{(p-1)l}, B^{p^2}$  の image は、  $\pm 1$  のみで交換し、他は fix する。  $\text{Im} f \cap H_2 \times \{e\} = H_2 \times \{e\}$  を得る。

Q.E.D.

ここで以下  $\Gamma(2)/\pm 1$  を略して  $\tilde{\Gamma}(2)$  と書く。今  $\tilde{\Gamma}(2) \xrightarrow{\varphi} H_2$  とおく、  $\varphi^{-1}(H_1) = G$  とおく。 Main theorem は次の Theorem である。

Theorem 3  $l$  は奇素数で  $l > p$ ,  $l \equiv 1 \pmod{p}$ ,  $l \not\equiv 1 \pmod{p-1}$ ,  $(l, p-1) = 1$  とする。この時、

$$\# \left( G / \begin{pmatrix} l & 0 \\ 0 & 1 \end{pmatrix} G \begin{pmatrix} l^{-1} & 0 \\ 0 & 1 \end{pmatrix} \cap G \right) = 2p(l+1)$$

である。

Remark  $G$  が  $\Gamma(2)$  の congruence subgroup である。  $l$  と  $l+1$  と  $p$  との関係から  $\# \left( G / \begin{pmatrix} l & 0 \\ 0 & 1 \end{pmatrix} G \begin{pmatrix} l^{-1} & 0 \\ 0 & 1 \end{pmatrix} \cap G \right) = l+1$  となる。  $G$  は congruence subgroup ではないことがわかる。

Proof  $\# \left( G / \begin{pmatrix} l & 0 \\ 0 & 1 \end{pmatrix} \tilde{\Gamma}(2) \begin{pmatrix} l^{-1} & 0 \\ 0 & 1 \end{pmatrix} \cap G \right) = l+1$  と。

$$\# \left( \begin{pmatrix} l & 0 \\ 0 & 1 \end{pmatrix} \tilde{\Gamma}(2) \begin{pmatrix} l^{-1} & 0 \\ 0 & 1 \end{pmatrix} \cap G / \begin{pmatrix} l & 0 \\ 0 & 1 \end{pmatrix} G \begin{pmatrix} l^{-1} & 0 \\ 0 & 1 \end{pmatrix} \cap G \right) = 2p$$

を示せばよい。自然な map

$G / \left( \begin{smallmatrix} \ell^0 & 0 \\ 0 & 1 \end{smallmatrix} \right) \tilde{\Gamma}(2) \left( \begin{smallmatrix} \ell^1 & 0 \\ 0 & 1 \end{smallmatrix} \right) \wedge G \hookrightarrow \tilde{\Gamma}(2) / \left( \begin{smallmatrix} \ell^0 & 0 \\ 0 & 1 \end{smallmatrix} \right) \tilde{\Gamma}(2) \left( \begin{smallmatrix} \ell^1 & 0 \\ 0 & 1 \end{smallmatrix} \right) \wedge \tilde{\Gamma}(2)$   
 が全射となる事は、Propositionの全射性の結論である。ゆえに成り  
 立。次のPropositionを示す事は帰着される。

Proposition 4 記号。仮定は定理のものとする。自然な map

$$\begin{aligned}
 & \left( \begin{smallmatrix} \ell^0 & 0 \\ 0 & 1 \end{smallmatrix} \right) \tilde{\Gamma}(2) \left( \begin{smallmatrix} \ell^1 & 0 \\ 0 & 1 \end{smallmatrix} \right) \wedge G / \left( \begin{smallmatrix} \ell^0 & 0 \\ 0 & 1 \end{smallmatrix} \right) G \left( \begin{smallmatrix} \ell^1 & 0 \\ 0 & 1 \end{smallmatrix} \right) \wedge G \\
 & \rightarrow \left( \begin{smallmatrix} \ell^0 & 0 \\ 0 & 1 \end{smallmatrix} \right) \tilde{\Gamma}(2) \left( \begin{smallmatrix} \ell^1 & 0 \\ 0 & 1 \end{smallmatrix} \right) / \left( \begin{smallmatrix} \ell^0 & 0 \\ 0 & 1 \end{smallmatrix} \right) G \left( \begin{smallmatrix} \ell^1 & 0 \\ 0 & 1 \end{smallmatrix} \right) \cong H_2 / H_1
 \end{aligned}$$

は全射である。

Proof の概略。  $\psi \in \tilde{\Gamma}(2)$ 。  $\psi(A^\ell) = A$ ,  $\psi(B) = B^\ell$  ( $= \tau$ )。  $A = \begin{pmatrix} 1 & 2 \\ 0 & 1 \end{pmatrix}$ ,  $B = \begin{pmatrix} 1 & 0 \\ 2 & 1 \end{pmatrix}$  として定義する。  $\tilde{\Gamma}(2) \xrightarrow{\psi} H_2 / H_1 \cong \{ \pm 1, \dots, \pm p \}$  とした時、任意の  $j \in \{ \pm 1, \dots, \pm p \}$  に対し、 $j$  次同値性値を満たす word  $F(A, B)$  が存在すればよい。

$$\begin{cases} \psi(F(A^\ell, B)) = 1 \\ \psi(\psi(F(A, B^\ell))) = j \end{cases}$$

この様な  $F$  を実際に構成するとはおぼつかない。この proof を得る。この部分については、組み合わせ論的な考察を必要とし、一連の結果の本質的な部分であるが、かなり長い考察を必要とするので、証明を省く。しかしこれは、あとに出る論文を見ればよい。 Q.E.D.



§3 Correspondence に関する結果.

==  $\mathbb{C}^2$  の correspondence を考える。(  $l$  を素数とする )

$$\begin{array}{ccc} \mathbb{C}^2 / \begin{pmatrix} l & 0 \\ 0 & 1 \end{pmatrix} G \begin{pmatrix} l^{-1} & 0 \\ 0 & 1 \end{pmatrix} \wedge G & & \\ \swarrow P & & \searrow \varphi \\ \mathbb{C}^2 / G & & \mathbb{C}^2 / G. \end{array}$$

§2 の main theorem 74.  $l > p$ ,  $l \equiv 1 \pmod{p}$ ,  $l \not\equiv 1 \pmod{p-1}$ ,  $(l, p-1) = 1$

の時  $\deg P = \deg \varphi = 2p(l+1)$  であることがわかる。今

$\mathbb{C}^2 / G$  の compactification  $(\mathbb{C}^2 / G)^*$  は  $E: y^2 = x(x-1)(x-p)$  と同型で

あるから。この correspondence  $\varphi^* P^*$  は  $H^1(E, \mathbb{Q})$  の自己準同

型をひきおこす。これは  $T(l)$  と書く。今。自然な map  $\mathbb{C}^2 / G \rightarrow \mathbb{C}^2 / \Gamma(2)$

から induce される map を  $\tau$  とする。  $\mathbb{C}^2 / \Gamma(2)$  上には同様に

$$\begin{array}{ccc} \mathbb{C}^2 / \begin{pmatrix} l & 0 \\ 0 & 1 \end{pmatrix} \Gamma(2) \begin{pmatrix} l^{-1} & 0 \\ 0 & 1 \end{pmatrix} \wedge \Gamma(2) & & \\ \swarrow P & & \searrow \bar{\varphi} \\ \mathbb{C}^2 / \Gamma(2) & & \mathbb{C}^2 / \Gamma(2) \end{array}$$

なる map を得るが。この方向を考える。

$$\Gamma_{\bar{p}, \bar{q}} = \mathbb{C}^2 / \begin{pmatrix} l & 0 \\ 0 & 1 \end{pmatrix} \Gamma(2) \begin{pmatrix} l^{-1} & 0 \\ 0 & 1 \end{pmatrix} \wedge \Gamma(2) \xrightarrow{(\bar{p}, \bar{q})} \mathbb{C}^2 / \Gamma(2) \times \mathbb{C}^2 / \Gamma(2)$$

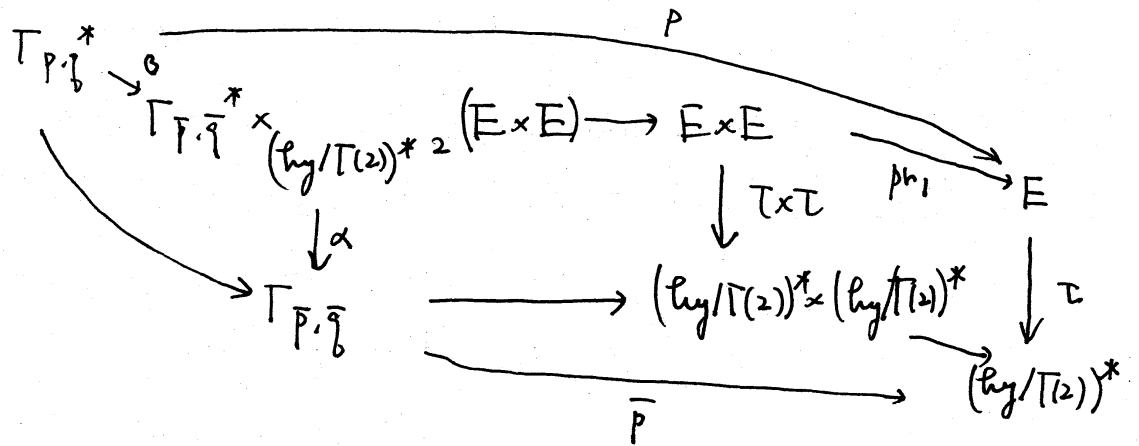
これは  $(p, q)$  の方向を  $\Gamma_{p, q}$  とする。

$$\Gamma_{p, q} = \mathbb{C}^2 / \begin{pmatrix} l & 0 \\ 0 & 1 \end{pmatrix} G \begin{pmatrix} l^{-1} & 0 \\ 0 & 1 \end{pmatrix} \wedge G \xrightarrow{(p, q)} \mathbb{C}^2 / G \times \mathbb{C}^2 / G.$$

Proposition 1.  $F$  の commutative diagram  $\bar{\sigma}$  fiber product である。

$$\begin{array}{ccc} \Gamma_{P, \bar{g}}^* & \longrightarrow & (\text{hy}/G)^* \times (\text{hy}/G)^* \cong E \times E \\ \downarrow & & \downarrow \tau \times \tau \\ \Gamma_{\bar{P}, \bar{g}}^* & \longrightarrow & (\text{hy}/\Gamma(2))^* \times (\text{hy}/\Gamma(2))^* \end{array}$$

Proof  $\bar{\sigma}$  は commutative である。  $F$  の可換図式が得られる。



また  $\deg \tau = 2p$  である。  $\deg \alpha = \deg(\tau \times \tau) = (2p)^2$ 。

$\Gamma_{P, \bar{g}}^* \rightarrow E \times E$  は injective である。  $\beta$  も injective。  $\bar{\sigma} =$

$\Gamma_{P, \bar{g}}^*, \Gamma_{\bar{P}, \bar{g}}^*$  は 1-既約である。  $\tau \circ P$  は finite である。  $\alpha \circ \beta$  も finite。

これは上の可換図式から。  $\deg(\beta \circ \alpha) \cdot \deg \bar{P} = \deg P \cdot \deg \tau$ 。

$\therefore \deg \bar{P} = l+1$  は  $\mathbb{Q}$  (未知) である。  $\deg P = 2p(l+1), \deg \tau$

$= 2p \cdot 2 \cdot l+2$ 。  $\deg(\beta \circ \alpha) = (2p)^2 = \deg \alpha$ 。  $\therefore \beta$  は surjective。

Corollary 2  $l. p \in \mathbb{N}$  对  $\tau$  の通しと可る。  $\Rightarrow a \in \mathbb{N}$ 。

$T(l) | H^1(E, \mathbb{Q}) = 0$  と可る。

Proof 前々  $\tau$  は  $E \rightarrow E/\pm 1 \mathbb{P}^1$

$$\tau \downarrow \cong \mathbb{P}^1 / \Gamma(2)$$

と factor 可る  $\tau$ 。  $\Gamma_{p,q}^* \cong \Gamma_{p,-p}^*$  と可る。  $\Rightarrow \tau^{-1}q = (-1) \left( \frac{q}{2} \text{ map} \right) \circ q$

と可る。  $\exists \tau$  correspondence と  $\subset \tau H^1 \pm 1 = (-1) \left( \frac{q}{2} \text{ map} \right) \circ \tau$  と

$\tau$  作用可る  $\tau$   $q \times p^* = - (l-q) \times p^*$ 。  $\Rightarrow$  可る。  $\Rightarrow$  上式を

得る。

Q.E.D.

Corollary 3.  $\Gamma_{p,q}^* (\text{mod } l)$  は  $l$  次  $\mathbb{P}^1$  と可る。

$$\Gamma_{p,q}^* (\text{mod } l) = H + \tau H$$

$$H = F + (-F) + C.$$

$\Rightarrow \tau F$  は  $E(\text{mod } l)$  の Frobenius の graph.  $C$  は  $\tau$  と可る

と  $\tau$  の  $l$  による  $\tau$  の  $l$  次  $\mathbb{P}^1$  と可る  $\tau(-1) \left( \frac{q}{2} \right) \tau$  stable。

Proof  $\Gamma_{p,q}^* (\text{mod } l) = (\tau \times \tau (\text{mod } l))^{-1}(F) + (\tau \times \tau (\text{mod } l))^{-1}(F)$

$\tau$ .  $(\tau \times \tau (\text{mod } l))^{-1}(F) = H$  と可る  $\subset E$ .

$$H = \{(x, y) \in (E \times E) (\text{mod } l) \mid \tau(x)^l = \tau(y)\}$$

$$= \{(x, y) \mid \tau(x^l) = \tau(y)\}$$

$$\mathbb{Z}/l\mathbb{Z} = H' = \{(x, u) \in (E \times E)(\text{mod } l) \mid \tau(x) = \tau(u)\}$$

$\mathbb{Z}/l\mathbb{Z}$  上の  $H'$  上の  $(x, u) \mapsto (x, u^e) \in H$  を define する。

$$\begin{array}{ccc} H' & \longrightarrow & H \\ \searrow & & \downarrow \\ & & (Fy/\tau(z)^*)(\text{mod } l) \end{array} \quad \begin{array}{l} \deg pr_1|_H = (\deg pr_1|_E) \times (2p)^2 \\ = (2p)^2 \\ \deg pr_2|_H = l(2p)^2 \end{array}$$

$\deg pr_1|_{H'} = (2p)^2$ ,  $\deg pr_2|_{H'} = l(2p)^2$ .  $\mathbb{Z}/l\mathbb{Z}$  上の  $H' \hookrightarrow H$  は  $\mathbb{Z}/l\mathbb{Z}$  上の  $H' \cong H$  である。

$$\begin{array}{ccc} H' & \longrightarrow & H \\ \alpha \downarrow & & \downarrow \\ E & \xleftarrow{pr_1} & E \times E \end{array} \quad \begin{array}{l} \alpha \text{ は } \mathbb{Z}/l\mathbb{Z} \text{ 上の } \alpha \text{ は separable, } \beta \text{ は purely} \\ \text{inseparable である。 } \beta \text{ は injective である。} \\ \text{これは } \mathbb{Z}/l\mathbb{Z} \text{ 上の } \end{array}$$

他方  $H' = (Fy/G)^* \times (Fy/G)^* \text{ mod } \mathbb{Z}/l\mathbb{Z}$  である。一般に  $l$  次  $Fy/\mathbb{Z}$

Lemma 4 により  $\mathbb{Z}/l\mathbb{Z}$  である。

Lemma 4  $\Gamma_1, \Gamma_2 \subset \Gamma \in SL(2, \mathbb{Z})$  a finite index の subgroup である。  $(Fy/\Gamma_1)^* \times (Fy/\mathbb{Z})^* (Fy/\Gamma_2)^*$  の normalization  $\cong \coprod_{\Gamma \backslash \Gamma/\Gamma_2 \ni g} (Fy/\Gamma_1 \cap g\Gamma_2g^{-1})^*$  である。

proof 略。

今この Lemma を使おうと

$$\begin{aligned}
 & (\mathbb{C}y/G)^* \times (\mathbb{C}y/\Gamma(2))^* (\mathbb{C}y/G)^* \text{ の normalization} \\
 & \cong \coprod_{G/\Gamma(2)/G} (\mathbb{C}y/G \sim gGg^{-1})^* \\
 & \cong \coprod_{H_1 \cup H_2/H_1} (\mathbb{C}y/G \sim gGg^{-1})^*
 \end{aligned}$$

で、 $H_1 \setminus \{\pm i \mid i=1, \dots, p\} = \{+1\} \cup \{-1\} \cup \{\pm 2, \dots, \pm p\}$   
 とおき、これは、 $\mathbb{C}y$  は independent であるから、ほとんどすべての  
 $\mathbb{C}y$  について既約成分は 3 つである。 $F \in F$  は明らかにこの 3 つの  
 成分であるから、残りの 1 つは、ほとんどすべての  $\mathbb{C}y$  について既約  
 である。 Q.E.D.